



保育、介護、障がい者支援、高齢者支援。 それぞれのノウハウが結実する福祉環境。



ユニットごとに設けられた共用トイレ。大便器の右前方にある三角形の棚は、スタッフの持ち物を置いたり、入所者の着替えを置くなど、便利に利用されている。なお、トイレ付きの個室は、ユニットごとに2部屋用意されている。

茅ヶ崎市及び寒川町の福祉の拠点として、誰もが地域で暮らせる取り組みを続けている社会福祉法人 翔の会。2012年7月には、新しい複合施設「ちがさきA・UN(あうん)」をオープンしました。1Fには保育園と児童発達支援センターが一つになった「うーたん」、生活介護事業を行う「おーらい」があり、2～4Fが、110床からなる特別養護老人ホーム「ゆるり」となっています。0歳から101歳の方まで自然に交流できる空間は、地域の暮らしを支えるコミュニティそのものです。

さまざまな人との自然な交流があり、 日常が社会へと開かれている施設。

「ゆるり」は全室個室で、10部屋を1ユニットとするユニットケアを導入。一人ひとりの時間を大切に作る場所では、保育園の子どもたちがユニット内に遊びに来ることもあり、世代を越えた交流も生まれています。同じ一人の生活者として自然に出会い、関係性を育む、「人が人の中で生きる」環境がここにあります。



住み慣れた地域で安心して暮らせるように、翔の会の施設は茅ヶ崎市と寒川町に集中している。

【特別養護老人ホーム ゆるり】

- 竣工年月 / 2012年6月
- 所在地 / 神奈川県茅ヶ崎市今宿473-1
- 施主 / 社会福祉法人 翔の会
- 設計 / 株式会社新環境設計
- 定員 / 110名
- 延床面積 / 6,311.18㎡(施設全体)



1Fのホールでコンサートを定期開催するなど、地域に根づいた活動と交流が行われている。



浴室では自宅のように寛いでほしいという思いから、浴槽にはヒノキ風呂を採用している。



重度の身体障がい者など、座位がとれない人のために、「寝便座」の設備も設けられている。



トイレなどのサインには、茅ヶ崎在住の絵本作家・古知屋恵子さんの絵が描かれている。

自然な動きによって 移乗できるトイレ。

ユニットの共用トイレは、大便器の後方から入るレイアウトを採用。トイレ入口から最短距離で便器までアプローチでき、前方手すりを使って、利用者も介助者も少ない負担で便器へ移乗することができます。さらに排泄後の手洗いも、左前方にある手洗器によって、こちらほとんど向きを変えずにスムーズに行うことができます。

Voice 介護福祉士さんからの声

排泄を促すいろいろな工夫も行っています。



移乗の模擬動作にもご協力いただいた介護福祉士さん

入所者さんに自然な排泄を促せるように、水を流して音を聴かせたり、スタッフも一緒にきばってみるなどの工夫を行っています。その方なりの排泄につながるサインを発見するようにしていますね。

介護福祉士さんによる 車いすからの移乗の模擬動作



トイレ入口から、余計な動きをせずにスムーズに入室。



車いすを回転させずに、少し向きを変えるだけで移乗できる。



前方アームレストは、座位を安定させるためにも効果的である。



さらに前方の手すりは、移乗の際のサポートなど、便利に利用できる。



ユニットの共用トイレ。大便器の掃除口は車いすの足先に当たってしまうため、便器前方ではなく横の位置のほうがよいとのことである。



1Fの女性用トイレ。左右勝手どちらにでも対応できるよう、便器の向きが逆になっている。巻上巾木で清掃のしやすさにも配慮している。



個室の扉はそれぞれ異なった色やデザインを採用。番地表示によって我が家の風情を醸し出している。



2Fの案内板



1Fの男性用トイレ。子どもも使いやすい壁掛式低リップタイプ小便器を採用し、洗面台の左右にも手すりを設けるなど、誰にでも使いやすい工夫が施されている。



1Fの多機能トイレ。紙巻器が高い位置にもあるのは、介助者が利用者の目の前でペーパーを取らず、腰の負担にもならない、細やかな気配りの一つである。



それぞれのユニットの玄関前は、高級感あふれる設えになっている。暖簾の向こうにあるのは機械浴室。

Voice 施設長さんからの声

新卒のスタッフが、日々大きく成長しています。



特別養護老人ホーム
ゆるり 施設長
高橋健一さん

私たちはユニットケアから地域への移行をめざし、さまざまな人が自由に入出入りできる、昔の長屋のような関係性を生み出したいと考えています。今回、110人規模の特養の施設をつくるに当たっては、福祉人材を育てたいという思いで、40名以上の職員はみんな新卒の方を採用しました。震災の後であり、福島の人たちにも多く来てもらっていますね。障がい者施設で経験を積んだ若い職員がリーダーとなり、一人ひとりに寄り添う姿勢をしっかりと伝えていきます。

Voice 課長さんからの声

縦プラス前方の手すりで、さらに安心を確保できます。



特別養護老人ホーム
ゆるり 課長
関野淳さん

ユニットのトイレは、縦手すりだけではなく、前方の跳ね上げ手すりに利用者さんが肘を乗せて縦と横を両方使うなど、その人の身体状況に合わせた使い方ができます。立ち上がりの時や、衣服の上げ下げの際につかまってもらうなど、転倒のリスクも減らせますから、前方に2本のバーがあることでとても安心できます。縦手すりは力が入りやすく、横手すりは姿勢をラクに保てるなど、それぞれのメリットを生かし、使いやすい方法を見つけてもらえますね。